

国際協力特別賞

私を変えたモンゴル人の男の子

国立大学法人 滋賀大学教育学部附属中学校 2年
若松 実香

「外国人の方と仲良くなりたいですか。」

以前、こんな質問が回ってきた時があった。その時に書いた答えは、「いいえ」だった。その時の私は外国の事を良く知らなかった。知ろうとも思っていなかった。よく見るニュースでは外国に行った日本人が被害にあったり、日本の事を悪く言ったりというものばかりが流れていたからだ。だから外国の人は日本の事を良く見ていないと心のどこかでレッテルを貼っていた。しかし、今の私はそうとは思っていない。今回は自分が貼ったレッテルが剥がれた時の出来事を紹介していく。

今年の7月、私の学校に9名のモンゴル人の生徒が来校した。その時に王くんという9歳の男の子と私の班と一緒に授業を受けた。王くんは、初めて会った私たちに

「こんにちは。」

笑顔で挨拶してくれた。私たちもモンゴル語を使って挨拶をすると、満面の笑みを浮かべてくれた。

「言葉が通じた。」

お互いにとっても嬉しかった。今まで外国人をあまり良く思っていなかった私が、今こんなに嬉しい気持ちになっている、なんだか不思議な気持ちだった。授業が進むにつれ、メインでもあるにぼしの解剖の時間になり、一人一人ににぼしが配られた。すると王くんはにおいをかぎ、不思議そうな顔をしたのだ。偶然通りかかった通訳の方が、

「とてもおどろいていますよ。これ、食べちゃうの？って。」

モンゴルではにぼしが無いらしく、初めて出てきた食べ物に王くんはとてもおどろいていたのだ。その時私は、「ああ、これだ。」と思った。今まで外国人の方を許す事ができなかった理由だ、と。今まで外国人の方が日本の食べ物を不思議そうに食べていたところを見たりして、自分たちのやっている事はおかしいという目で見られているのではないかと思う時があるからだった。でも王くんのしぐさはそのようには感じられなく、興味津々という感じだったのだ。その様子を見て私は、自分は何を思っていたのだろう、とも感じた程だ。

帰り際、王くんは私に1つの小さなお人形をくれた。そして、

「ありがとう。モンゴルにも来てね。」

と覚えてたので日本語で話しかけてくれた。思わず涙が出た。前日まで嫌だと思っていた事が、こんな小さな子に教えられて、その気持ちが変わった事が嬉しかった。

とても短い1時間だったが、私の人生の中で大切な事を教えてもらえた大事なひとときになった。今、もう一度自分に聞く。

「外国人の方と仲良くなりたいですか。」
今ここに、「はい」と答える自分がいる。